



プレコンドック

結果報告書の見方について

CREAGE

TOKYO

レディースドッククリニック

## はじめに

この度はクレアージュ東京 レディースドッククリニックの  
プレコンドックを受診いただき、誠にありがとうございました。

結果報告書にある内容についてご説明いたします。

何かご不明な点、ご不安な点がございましたら、  
外来でアフターフォローもさせていただいておりますので、

お気軽にご連絡くださいませ。

TEL:0120-815-835(火曜～土曜 9時～16時※日月を除く)

### 総合コメントについて

---

結果報告書の総合コメント欄では、各検査についてのコメントをまとめております。

所見がある場合でも、症状の有無や、年齢、妊活をすぐに始めるかなどの今のライフステージやこれからのライフプランによって、治療の必要性などが異なります。また、今回の検査では不妊のリスクや疾患を疑う兆候を拾い上げたにすぎず、確定診断や治療のためには婦人科や不妊治療クリニックなどの各専門医にて精密検査が必要です。気になる症状・所見がある場合は、かかりつけ医をもち、よくご相談いただくことをお勧めいたします。

### 基準値について

---

基準値は、健常者の方の測定結果を集計し、平均値をはさんで95%の人が含まれる範囲をいいます。統計的に出しているため、健康な方でも基準範囲から外れる場合もございます。基準値から外れていても、病気とは限りません。正確な診断には、基準値との比較だけではなく、医師による判断が必要となります。年齢や性別、他の検査結果や過去の検査結果などを考慮して判断する必要があります。定期的な検査を通して、ご自身の健康時の値を把握することが重要です。

## 婦人科検査

検査名	分かること
経腔超音波	超音波を腔の中からあてて、はね返ってくる反射波を画像化して、子宮や卵巣の状態を調べる検査です。自覚症状のない子宮や卵巣の小さな異常も鮮明に見ることができます。
主な所見・診断	
子宮筋腫	子宮の筋肉にできる良性の腫瘍です。過多月経、月経痛、不正出血、不妊症などの原因になりますが、無症状の場合も多いです。大きさ、症状、年齢、妊娠希望の有無などを考慮して、婦人科医師と治療方針を決めることをお勧めします。
子宮腺筋症	子宮筋層内に子宮内膜組織に類似した組織を認める疾患で、30～40歳代に多い良性の病気です。治療方針は基本的には子宮筋腫と同じになります。婦人科医師にご相談することをお勧めします。
卵巣嚢腫	卵巣にできる腫瘍のうち、袋（嚢胞）の中に液体が入っている状態の腫瘍です。卵巣嚢腫はほとんどが良性で、20～30歳代の若年層にも多い病気ですが、あらゆる年齢層に発生します。捻転や破裂は激痛の原因になることがあります。また、まれに悪性化の可能性があるため、経腔超音波検査による定期的な経過観察をお勧めします。
子宮内膜ポリープ	子宮内膜の細胞が異常増殖し、子宮の内腔に突出したものです。一般的には良性腫瘍であることがほとんどですが、がんが隠れていることもあります。貧血や不妊の原因になる可能性があるため、婦人科受診をお勧めします。
子宮内膜肥厚	子宮内膜は、毎月月経周期に伴って増殖したりはがれたりを繰り返しています。女性ホルモンの影響で、子宮内膜が異常に分厚くなることがあります。子宮体がんや体がんの前がん状態が見つかることもあるため、婦人科受診をお勧めします。

検査名	分かること			
子宮頸部細胞診	子宮頸部に発生するがんを調べることができます。無症状のうちに1年に1回検診を受けることが大切です。クレンジュ東京では、ベセスダ分類とクラス分類の二種類で検査結果をお伝えしています。			
主な所見・診断				
ベセスダ分類	従来のクラス分類	結果	推定される病理診断	詳細
NILM	I・II	陰性	非腫瘍性所見、炎症	異常なし：定期的な検診をお勧めします。
ASC-US	II～IIIa	意義不明な異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	要精密検査： ①HPV検査を同時に実施していて、その結果が陰性だった場合、定期的な細胞診の検査をお勧めします。陽性だった場合、コルポスコピー、生検をお勧めします。 ②HPV検査を同時に実施していない場合、6ヵ月後と12ヵ月後に細胞診の再検査をお勧めします。 婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
ASC-H	IIIa・IIIb	HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	要精密検査： 直ちにコルポスコピー、生検をお勧めします。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
LSIL	IIIa	軽度扁平上皮内病変	HPV感染、軽度異形成	
HSIL	IIIa・IIIb・IV	高度扁平上皮内病変	中等度異形成、高度異形成、上皮内がん	
SCC	V	扁平上皮がん	扁平上皮がん	
AGC	III	異型腺細胞	腺異型または腺がん疑い	要精密検査： コルポスコピー、生検、頸管組織診、内膜細胞診をお勧めします。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
AIS	IV	上皮内腺がん	上皮内腺がん	
Adenocarcinoma	V	腺がん	腺がん	
Other malig.	V	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	要精密検査： 病変の検索が必要です。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。

検査名	分かること
ハイリスクヒトパピロームウイルス(HPV)	大部分の子宮頸がんはハイリスクHPVが原因です。ハイリスクHPVに感染しても症状は全くありませんが、簡単な検査で診断できます。細胞診と併用すると精度が上がります。検査結果によって今後の方針が異なってきますので、婦人科医師コメントをご参照ください。

## ホルモン検査

検査名	分かること
AMH / 抗ミュラー管ホルモン (卵巣予備能)	AMH (抗ミュラー管ホルモン) は、発育中の卵胞から分泌されるホルモンです。卵巣予備能(これから発育できる卵子数)の指標とされています。加齢に伴い徐々に減少し、閉経を迎える頃には検出されなくなります。疾患との関連では、多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) で高値となる可能性があります。また、ピルを服用中の方は少し低い値がでます。

年齢別平均値 (ng/ml)

~27歳	4.69	32歳	3.54	37歳	2.27	42歳	1.00
28歳	4.27	33歳	3.32	48歳	1.90	43歳	0.72
29歳	4.14	34歳	3.14	49歳	1.80	44歳	0.66
30歳	4.02	35歳	2.62	40歳	1.47	45歳	0.41
31歳	3.85	36歳	2.50	41歳	1.30	46歳~	0.30

JISART(日本生殖補助医療標準化機関)より

### 卵巣予備能の考え方

AMH値はあくまでも卵子の数の指標です。卵子の質がよいか、順調に育つかは実年齢に相関します。妊娠するためにはいくつかの因子が関係するため、AMH値から安易に「妊娠できるか」を判定すべきではありません。また、AMH値が低値だからといって自然妊娠できないわけではありません。AMH値は、「これから発育できる卵子の数の指標」として考え、ライフプラン作りの参考にしてみてください。

検査名	分かること
プロラクチン	母乳をつくるために欠かせないホルモンで、本来は出産後に多く分泌されます。妊娠・産褥期以外の時期に何らかの原因でプロラクチンが上昇する「高プロラクチン血症」になると排卵が障害されたり、無月経や稀発月経が起こり、不妊へとつながるため、高値で月経不順の場合、妊活中の方は婦人科の受診をおすすめします。

## 抗体検査

検査名	分かること
風疹抗体 麻疹抗体	妊産婦の感染により流産や早産のリスクになる感染症に対して、過去の感染または予防接種により、現在感染を阻止できる抗体価があるかどうかを判定します。陰性で免疫が不十分な場合は、各感染症の予防接種を受けることをお勧めしております。妊娠中はワクチン接種が受けられず、接種後は妊娠してしまわないように2カ月間の避妊期間が必要です。

### 対象となる感染症

風疹	発熱などの症状とともに全身に発疹が出る感染症。抗体を持たない妊娠中の女性が感染すると赤ちゃんにも感染し、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど「先天性風疹症候群」を発症する場合があります。
麻疹 (はしか)	感染力が強く、抵抗力がない人が感染するとほぼ90%以上が発症します。特別な治療はなく、合併症がなくても入院を要する病気です。妊娠中に感染すると重症化しやすいと言われており、流産や早産のリスクが高まります。

検査名	分かること
クラミジア抗体 (IgA ,IgG)	クラミジアは最も多い性感染症の一つで、子宮・卵管の周囲で炎症を起こすことで癒着や卵管性不妊を引き起こすことがあります。自覚症状が見られないことが多いです。この検査ではクラミジア感染の有無を調べます。過去の感染でも陽性になります。初めて陽性となった場合や現在感染している場合にはパートナーと共に抗生剤治療を行う必要があります。過去の感染でも癒着が残り不妊につながる場合があるので注意が必要です。

## 甲状腺機能

体全体の新陳代謝をコントロールするホルモンで、多すぎても少なすぎても月経周期の異常や不妊・流産の原因になります。また、様々な不調を引き起こすため、異常を認めた場合には、今すぐの妊娠出産を考えていない場合でも、内分泌内科への受診をおすすめします。

項目名	分かること
TSH	TSH(甲状腺刺激ホルモン)は甲状腺ホルモンの分泌を調節するホルモンで、脳の下垂体から分泌されます。このTSHの分泌量が甲状腺ホルモンの分泌量に影響します。
FT4	甲状腺ホルモンのひとつ遊離サイロキシンの量を調べる検査です。甲状腺ホルモンT3をつくる素になります。
FT3	甲状腺ホルモンのひとつ遊離トリヨードサイロニンの量を調べます。糖・たんぱく、脂質の代謝を促進し新陳代謝を高める働きをします。交感神経を活発にして成長発達を促進します。

## 計測検査

やせも肥満も排卵障害を引き起こし、不妊のリスクを高めます。また、やせは貧血に、肥満は糖尿病・高血圧などにつながり、妊娠中や出産時のリスクを高めます。

項目名	分かること	
身長・体重・BMI	BMI値は身長に見合った体重かどうかを判定する数値です。体重÷身長÷身長で算出します。18.5～24.9が基準範囲です。	
体脂肪率	体重に対して脂肪がどれだけあるか、割合を示したものです。体脂肪率は年齢・性別によって適切な割合が異なります。 【標準範囲】18～39歳:21～34% 40～59歳:22～35% 59歳～:23～36%	
体組成	筋肉量	脂肪量と推定骨量を除く組織量で、姿勢を保ったり、心臓を動かしたりする筋肉組織(骨格筋、平滑筋、水分量)の質量。筋肉量が減るとエネルギー消費が減り、脂肪が蓄積されやすくなって生活習慣病などの原因にもなります。
	基礎代謝量	「生きていくために最低限必要なエネルギー」のことで、肉体的・精神的に安静であるときに、消費するエネルギー量です。1日の総消費エネルギー量の約70パーセントにもなります。 【基準値(kcal/日)】18～29歳:1110 30～49歳:1150 50～69歳:1100
血圧	妊娠の際に高血圧である場合、妊娠高血圧症候群や早産、胎児発育遅延のリスクが高まります。すでに高血圧がある方は、生活習慣の改善のほかに降圧薬による治療が必要となる場合があります。	

※体組成測定結果については、ご受診の際にお渡しした体組成の結果用紙にも各項目の標準範囲や体型判定、ボディバランスなどの詳細が記載されています。

## 血液一般

妊娠中は、必要な鉄の量が増すため、鉄欠乏性貧血のリスクが高くなります。妊娠性鉄欠乏性貧血は、早産や低出生体重児のリスクを増大させ、生まれた子供が貧血を発症する可能性が高くなり、発育にも影響を与えます。ご自身の現在の不調の原因にもなるので、食生活の見直しや治療などをおすすめします。

項目名	分かること
白血球数	白血球は、細菌やウイルスなどの外敵や、役目を終えた細胞などを排除し、身体を守る働きをします。感染症やけがなどにより身体に炎症がおきると増加します。妊娠中、運動直後や、ヘビースモーカーは健康でも増加することがあります。白血病の場合は、異常な白血球が増えますが、逆に白血球が減ることもあります。白血球が減ると免疫力が低下して感染症にかかりやすくなります。
赤血球数	赤血球が不足すると貧血状態になります。反対に、赤血球の数が多すぎると、血液の粘度が増すため、血液循環が悪くなり、頭痛やめまい、高血圧や、脳梗塞、心筋梗塞の原因になることがあります。
ヘモグロビン	血液中の赤色の素になるヘモグロビンの量を調べます。ヘモグロビンは酸素を全身の組織に運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運ぶ働きをします。ヘモグロビンの量が足りないと、酸素の運搬に支障が起き、動悸や息切れ、めまいなどの貧血症状が生じます。
ヘマトクリット	ヘマトクリットとは、一定量の血液中に占める赤血球の容積の割合をパーセントで表した数値です。「ヘマトクリットが高い=赤血球の容積が多い」こととなります。赤血球が多すぎると血液に粘り気がでて、血管をスムーズに流れにくくなります。
MCV・MCH・MCHC	MCV…赤血球1個の平均的容積量です。赤血球の大きさの指標となります。 MCH…赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したものです。 MCHC…赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比を表したものです。 鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血の診断に使用します。
血小板数	血小板は、血管からの出血を止める働きをします。血小板が少ないと、出血しやすくなります。出血した傷口の周りに血小板が集まって血栓を作ることで出血を止めます。

## 糖代謝

妊娠中の糖代謝異常には、妊娠前から糖尿病がある「糖尿病合併妊娠」と、妊娠中に初めて発見される糖代謝異常があり、生まれてくる子供の先天異常や形成異常の発生や流産のリスクが高まります。妊娠成立後でもよいので、血糖をコントロールすることが推奨されています。

項目名	分かること
血糖	血液中のブドウ糖の量を調べます。血液中のブドウ糖は、各細胞のエネルギー源になりますが、膵臓で作られるインスリンが不足したり、インスリンの作用が低下すると、血液中の糖濃度が高くなります。
HbA1c(NGSP)	ヘモグロビンA1cとは、血液中のブドウ糖とヘモグロビンが結合したものです。検査時からさかのぼって過去1～2ヵ月間の血糖のレベルがわかり、糖尿病診断の指標となっています。また、加齢とともに上昇する傾向があります。

## 感染症検査

妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります(母子感染)。感染症検査で陽性となった場合は、内科で投薬治療をおこなったり、妊娠・出産時に母子感染対策についてかかりつけの医師に相談することをおすすめします。

項目名	分かること
HBs抗原	B型肝炎ウイルスに感染しているかを調べます。陽性の場合、精密検査が必要です。過去の精密検査の結果無症候性キャリアと診断されている方は定期的な肝機能検査・腹部超音波検査を受けることをお勧めします。
HBs抗体	過去にB型肝炎に感染した方や、予防接種(B型肝炎ワクチン)を受けた方は陽性になります。
HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染しているかを調べます。過去の感染でも陽性になります。陽性の場合精密検査が必要です。
梅毒(RPR、TPHA)	梅毒は性感染症の一つです。この検査ではTPとRPRという二つの抗体検査の結果を見て判断します。感染が疑われる場合は、婦人科にて精密検査を行うことをおすすめします。感染している場合は周囲で感染の可能性のある方(パートナー等)と一緒に検査・治療を行うことが重要です。

## プレコン・チェックシート

### 生活と心身を整える

- 適正体重をキープしよう。
- 禁煙する。
- 受動喫煙を避ける。
- 節度ある適度なアルコールをこころがける。
- バランスの良い食事をこころがける。
- 食事とサプリメントから葉酸を積極的に摂取しよう。
- 150分/週運動しよう。こころもからだも活発に。
- ストレスをためこまない。
- 危険ドラッグを使用しない。
- 有害な薬品を避ける。

### 検査を受ける

- 感染症から自分を守る。  
(風疹・麻疹・B型/C型肝炎・性感染症など)
- ワクチン接種をしよう。(風疹・インフルエンザなど)
- パートナーも一緒に健康管理をしよう。
- 生活習慣病をチェックしよう。(血圧・糖尿病・検尿など)
- がんのチェックをしよう。(乳がん・子宮頸がんなど)
- 子宮頸がんワクチンを若いうちにとよう。
- かかりつけの婦人科医をつくろう。
- 持病と妊娠について知ろう。(薬の内服についてなど)
- 家族の病気を知っておこう。
- 歯のケアをしよう。

### ライフプランを考える

- 計画: 将来の妊娠・出産をライフプランとして考えてみよう。